分野	科目名	単位	時間数	時期	担当講師
専門基礎	解剖生理学Ⅰ(総論・骨・関節)	1	30	1年次・第1学期	☑ 兼任教員 ☐ 専任教員

講義目標	人体の発生と構造、生命現象を学び、骨・筋系の構造と機能を理解し、看護実践の基礎とする
DPとの関連性	□1. 生活者としての人間を統合された存在として多角的に捉えることができる。 □2. 「人間の生命」、人間としての尊厳及び権利を尊重した判断および行動をすることができる。 □3. 人々の多様な価値観を認識して、専門職業人としての共感的態度および倫理観に基づいた看護を実践することができる。 ■4. 看護の対象となる人々の健康状態を判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 □5. 保健・医療・福祉チームの一員として多職種との連携・協働を図り調整的役割を果たすことができる。 □6. 地域医療への理解を深め、地域の人々の生活を尊重・支援することができる □7. 自己の資質向上のため、看護に対する探求心・向上心をもち、生涯にわたり主体的に学び続けることができる

回	内容	方略
1	Ⅰ. 解剖生理学のための基礎知識 1. 人体解剖学、人体の大要と解剖学用語 2.人体の素材としての細胞・組織 1)細胞の構造 （1）核 （2）細胞膜と細胞質 （3）細胞小器官と細胞骨格	講義
2.3	2)細胞を構成する物質とエネルギーの生成 （1）核酸とタンパク質の合成 3)細胞の増殖と染色体 （1）染色体とゲノム	
4.5	4)分化した細胞がつくる組織 （1）上皮細胞 （2）筋組織 （3）結合組織 （4）神経組織	
6.7	3. 構造と機能からみた人体 1)構造からみた人体 （1）人体の区分 （2）人体の形状	
8	2)機能からみた人体 （1）内部環境と恒常性	
9.10	Ⅱ. 骨・関節 1.骨格とは 2.骨の連結とは 3.骨格筋	
11.12	4.体幹の骨格と筋 5.上肢の骨格と筋 6.下肢の骨格と筋	
13.14	7.頭頸部の骨格と筋 8.筋の収縮	
15	評価	筆記試験

評価方法	筆記試験100%　全体的に覚える必要がある項目が多い。
テキスト・参考図書	1)系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能1　解剖生理学　医学書院 2)佐藤達夫監修：新版　からだの地図帳　講談社
取組	副読本や実際の写真などを用いて授業を展開し、理解を深める。
備考	

分野	科目名	単位	時間数	時期	担当講師
専門基礎	解剖生理学Ⅱ(呼吸・循環)	1	30	1年次・第１、2学期	☑ 兼任教員 ☐ 専任教員

講義目標	呼吸・循環系の臓器の位置・名称・構造と機能を理解し、呼吸・循環系の障害を学ぶ基礎とする。
DPとの関連性	□1. 生活者としての人間を統合された存在として多角的に捉えることができる。 □2. 「人間の生命」、人間としての尊厳及び権利を尊重した判断および行動をすることができる。 □3. 人々の多様な価値観を認識して、専門職業人としての共感的態度および倫理観に基づいた看護を実践することができる。 ■4. 看護の対象となる人々の健康状態を判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 □5. 保健・医療・福祉チームの一員として多職種との連携・協働を図り調整的役割を果たすことができる。 □6. 地域医療への理解を深め、地域の人々の生活を尊重・支援することができる □7. 自己の資質向上のため、看護に対する探求心・向上心をもち、生涯にわたり主体的に学び続けることができる

回	内容	方略
1～7	Ⅰ. 呼吸 1.呼吸器の構造 1)上気道・下気道と肺 2)胸膜・縦隔 3)呼吸筋の構造	講義・演習・デモスト
	2.呼吸のしくみ 1)換気 2)呼吸運動 3)呼吸調整	
8～14	Ⅱ. 循環 1.心臓 1)心臓の構造 2)心臓の機能 3)刺激伝導系 4)心機能の調整	
	2.血管系 1)動脈・静脈・毛細血管 2)肺循環・体循環 3)冠循環 4)胎児の血液循環	
	3. リンパ系 1)リンパ 2)リンパ管の構造と機能	
15	評価	筆記試験

評価方法	筆記試験100%
テキスト・参考図書	1)系統看護講座　専門基礎分野　人体の構造と機能1　解剖生理学　医学書院 2)佐藤達夫監修：新版からだの地図帳　講談社
取組	動画や写真などを用いて授業を展開し、理解を深める。
備考	

分野	科目名	単位	時間数	時期	担当講師
専門基礎	解剖生理学Ⅲ (代謝・消化器・腎・泌尿・内分泌・生殖)	1	30	1年次・第1、2学期	☑ 兼任教員 ☐ 専任教員
講義目標	消化器系・腎・泌尿器・内分泌系・生殖器系の臓器の位置・名称・構造と機能を理解し、消化器系・腎・泌尿器・内分泌系・生殖器系の障害を学ぶ基礎とする。				
DPとの関連性	□1. 生活者としての人間を統合された存在として多角的に捉えることができる。 □2. 「人間の生命」、人間としての尊厳及び権利を尊重した判断および行動をすることができる。 □3. 人々の多様な価値観を認識して、専門職業人としての共感的態度および倫理観に基づいた看護を実践することができる。 ■4. 看護の対象となる人々の健康状態を判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 □5. 保健・医療・福祉チームの一員として多職種との連携・協働を図り調整的役割を果たすことができる。 □6. 地域医療への理解を深め、地域の人々の生活を尊重・支援することができる □7. 自己の資質向上のため、看護に対する探求心・向上心をもち、生涯にわたり主体的に学び続けることができる				

回	内容	方略
1～4	Ⅰ. 消化 1.消化器系の構造 1)口腔、歯、唾液腺、咽頭、喉頭、食道、胃、小腸、大腸、肝臓、胆嚢、膵臓、腹膜、腹膜腔	講義、演習
5～7	2. 消化・吸収・代謝 1)消化器系の機能(口腔、食道、胃、小腸、大腸、肝臓、胆嚢)	
8～11	Ⅱ. 排泄(腎・泌尿) 1.腎臓の構造 2.腎臓の機能 1)尿の生成と腎臓のはたらき、排尿と尿の成分 2)体液の調節	
12	Ⅲ. 内分泌 1.ホルモン(視床下部、下垂体系・後系、甲状腺、副甲状腺、副腎皮質、副腎髄質、性腺ホルモン)	
13	Ⅳ. 生殖 1.男性生殖器系の構造と機能 1)精巣、精路、附属生殖腺、男性外陰部	
14	2.女性生殖器系の構造と機能 1)卵巣、卵管、子宮、卵巣、膣、女性外陰部、会陰、乳腺	
15	評価	筆記試験

評価方法	筆記試験100%
テキスト・参考図書	1)系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能1　解剖生理学　医学書院 2)佐藤達夫監修：新版　からだの地図帳　講談社
取組	動画や写真などを用いて授業を展開し、理解を深める。
備考	

分野	科目名	単位	時間数	時期	担当講師
専門基礎	解剖生理学Ⅳ (神経・感覚器・血液・免疫)	1	30	1年次・第2学期	☑ 兼任教員 ☐ 専任教員
講義目標	神経系、血液・免疫系、感覚器系の臓器の位置・名称・構造と機能を理解し、神経系、血液・免疫系、感覚器系の障害を学ぶ基礎とする。				
DPとの関連性	□1. 生活者としての人間を統合された存在として多角的に捉えることができる。 □2. 「人間の生命」、人間としての尊厳及び権利を尊重した判断および行動をすることができる。 □3. 人々の多様な価値観を認識して、専門職業人としての共感的態度および倫理観に基づいた看護を実践することができる。 ■4. 看護の対象となる人々の健康状態を判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 □5. 保健・医療・福祉チームの一員として多職種との連携・協働を図り調整的役割を果たすことができる。 □6. 地域医療への理解を深め、地域の人々の生活を尊重・支援することができる □7. 自己の資質向上のため、看護に対する探求心・向上心をもち、生涯にわたり主体的に学び続けることができる				

回	内容	方略
1～5	Ⅰ. 調節 1.神経系の区分と発生 1)中枢神経系(脊髄、脳、伝導部) 2)抹消神経系(脊髄神経、脳神経、自律神経系) 2.神経系の生理	講義
6～10	Ⅱ. 感覚器 1.感覚器の構造と機能 1)膚、筋・腱・関節の知覚神経、味覚器、臭覚器 2)聴覚及び平衡覚、視覚	
11～15	Ⅲ. 血液・免疫 1.血液 1)血液の組成と機能 2)赤血球・白血球・血小板・リンパ球 3)血漿タンパク質と赤血球沈降 4)血液の凝固と繊維素溶解 5)血液型	
15	評価	筆記試験

評価方法	筆記試験100%
テキスト・参考図書	1)系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能1　解剖生理学　医学書院 2)佐藤達夫監修:新版　からだの地図帳　講談社
取組	動画や写真などを用いて授業を展開し、理解を深める。
備考	

分野	科目名	単位	時間数	時期	担当講師
専門基礎	生化学	1	30	1年次・第1学期	☑ 兼任教員 ☐ 専任教員
講義目標	人体の構成成分である科学物質の性状、その分布、及び代謝について学び、人間の生命現象を科学的に判断する能力を養う、現代医療を支えている生化学の知識についても学ぶ。				
DPとの関連性	□1. 生活者としての人間を統合された存在として多角的に捉えることができる。 □2. 「人間の生命」、人間としての尊厳及び権利を尊重した判断および行動をすることができる。 □3. 人々の多様な価値観を認識して、専門職業人としての共感的態度および倫理観に基づいた看護を実践することができる。 ■4. 看護の対象となる人々の健康状態を判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 □5. 保健・医療・福祉チームの一員として多職種との連携・協働を図り調整的役割を果たすことができる。 □6. 地域医療への理解を深め、地域の人々の生活を尊重・支援することができる □7. 自己の資質向上のため、看護に対する探求心・向上心をもち、生涯にわたり主体的に学び続けることができる				

回	内容	方略
1.2	1.看護師として生化学を学ぶ必要性 2.細胞(生体の基本単位) 1)細胞 2)各細胞小器官	講義
3.4	3.酵素 1)酵素の分類・応用 2)ビタミンと補酵素 4.糖質 1)糖質の構造・分類・役割 2)糖質の代謝(グルコースの分解・糖新生・グリコーゲンの代謝)	
5.6	5.脂質 1)脂質の構造・分類・役割 2)脂質の代謝(脂肪酸のβ酸化、生合成) 3)コレステロールの合成	
7～10	6.タンパク質について 1)アミノ酸の構造・分類・役割 2)タンパク質の構造・分類・役割 3)タンパク質の代謝(消化・α-ケト酸の生成・尿素回路)	
11.12	７．核酸 1)核酸の構造・分類・役割 2)遺伝情報(タンパク質の合成、転写、翻訳)	
13.14	8.水と無機酸 9.エネルギー代謝と栄養	
15	評価	筆記試験

評価方法	筆記試験100%
テキスト・参考図書	1)系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能2　生化学　医学書院
取組	授業の中で小テストなどを用いて知識の定着を図る。
備考	

分野	科目名	単位	時間数	時期	担当講師
専門基礎	栄養学	1	15	1年次・第2学期	☑ 兼任教員 ☐ 専任教員
講義目標	人間の生命の維持・成長、臓器・組織の正常な機能の維持に必要な栄養の基礎を学習し、食事と健康の維持・回復のための臨床栄養を学ぶ。				
DPとの関連性	□1. 生活者としての人間を統合された存在として多角的に捉えることができる。 □2. 「人間の生命」、人間としての尊厳及び権利を尊重した判断および行動をすることができる。 □3. 人々の多様な価値観を認識して、専門職業人としての共感的態度および倫理観に基づいた看護を実践することができる。 ■4. 看護の対象となる人々の健康状態を判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 □5. 保健・医療・福祉チームの一員として多職種との連携・協働を図り調整的役割を果たすことができる。 □6. 地域医療への理解を深め、地域の人々の生活を尊重・支援することができる □7. 自己の資質向上のため、看護に対する探求心・向上心をもち、生涯にわたり主体的に学び続けることができる				

回	内容	方略
1～3	1.栄養の定義と栄養学の目的 2.栄養素の種類と栄養的意義 3.ライフステージと栄養の特徴 4.栄養状態の判定	講義
4	5.臨床栄養 1)病院食	
5～7	2)疾患別食事療法の実際 (１)循環器疾患患者の食事療法 (２)消化器疾患患者の食事療法 (３)栄養・代謝疾患患者の食事療法 (４)腎臓疾患患者の食事療法 (５)血液疾患患者の食事療法 (６)小児疾患患者の食事療法 (７)妊娠高血圧症候群患者の食事療法 (８)術前・術後患者の食事療法 (９)栄養補給法	
8	評価	筆記試験

評価方法	筆記試験100%
テキスト・参考図書	1)系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能3　栄養学　医学書院 2)系統看護学講座　別巻　栄養食事療法　医学書院
取組	動画や写真などを用いて授業を展開し、理解を深める。
備考	

分野	科目名	単位	時間数	時期	担当講師
専門基礎	病理学総論	1	15	１年次・第２学期	☑ 兼任教員 ☐ 専任教員
講義目標	炎症・腫瘍・奇形等について病因と病変の特徴について学ぶ				
DPとの関連性	□1. 生活者としての人間を統合された存在として多角的に捉えることができる。 □2. 「人間の生命」、人間としての尊厳及び権利を尊重した判断および行動をすることができる。 □3. 人々の多様な価値観を認識して、専門職業人としての共感的態度および倫理観に基づいた看護を実践することができる。 ■4. 看護の対象となる人々の健康状態を判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 □5. 保健・医療・福祉チームの一員として多職種との連携・協働を図り調整的役割を果たすことができる。 □6. 地域医療への理解を深め、地域の人々の生活を尊重・支援することができる □7. 自己の資質向上のため、看護に対する探求心・向上心をもち、生涯にわたり主体的に学び続けることができる				

回	内容	方略
1	1.病理学とは 1)病気の原因(内因・外因) 2)病気の分類	講義
2	2.先天異常と遺伝子異常について 1)先天異常 （１)奇形 2)遺伝性疾患 3)染色体異常 4)胎児障害	
3	3.代謝異常 1)脂質代謝障害 2)糖質代謝障害 3)タンパク質代謝障害	
4	4.循環障害 1)局所性 2)全身性 3)リンパ	
5	5.炎症と免疫 1)炎症と免疫 2)免疫異常疾患・移植	
6	6.感染症 1)病原体、宿主の防御機能 2)治療・予防	
7	７．腫瘍 1)定義、分類、発生病理 2)悪性腫瘍、診断、治療 ８．老化と死 1)細胞の老化、個体の死	
8	評価	筆記試験

評価方法	筆記試験100%
テキスト・参考図書	1)系統看護学講座　専門基礎分野　疾病のなりたちと回復の促進1　病理学　医学書院
取組	動画や写真などを用いて授業を展開し、理解を深める。
備考	

専門分野	科目名	単位	時間数	時期	担当講師
専門基礎	病態生理学I (呼吸・循環)	1	30	1年次・第2学期	☑ 兼任教員 ☐ 専任教員
講義目標	呼吸・循環系疾患の病因・病態・症状の特徴と検査・治療について理解し、看護実践における健康・疾病に関する観察力・判断力の根拠とする。				
DPとの関連性	□1. 生活者としての人間を統合された存在として多角的に捉えることができる。 □2. 「人間の生命」、人間としての尊厳及び権利を尊重した判断および行動をすることができる。 □3. 人々の多様な価値観を認識して、専門職業人としての共感的態度および倫理観に基づいた看護を実践することができる。 ■4. 看護の対象となる人々の健康状態を判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 □5. 保健・医療・福祉チームの一員として多職種との連携・協働を図り調整的役割を果たすことができる。 □6. 地域医療への理解を深め、地域の人々の生活を尊重・支援することができる □7. 自己の資質向上のため、看護に対する探求心・向上心をもち、生涯にわたり主体的に学び続けることができる				

回	内容	方略
1～7	I. 呼吸 １. 呼吸系の疾患 1)症状と病態生理 2)診断に用いる検査	講義
	3)呼吸器系の疾患と治療 (1)気道・肺の炎症 (2)気道の閉塞をきたす疾患 (3)肺循環障害 (4)肺腫瘍 (5)呼吸不全 (6)気胸	
8～14	II. 循環 １. 循環系の疾患 1)症状と病態生理 2)診断に用いる検査	
	3)循環系疾患と治療 (1)先天性心疾患 (2)虚血性心疾患 (3)心筋症 (4)心不全 (5)不整脈 (6)心内膜炎と弁膜疾患 (7)動脈硬化症 (8)高血圧 (9)閉塞性動脈硬化症 (10)大動脈瘤・大動脈解離 (11)静脈瘤・静脈血栓症	
15	評価	筆記試験

評価方法	筆記試験100%
テキスト・参考図書	1)系統看護学講座　専門基礎分野　疾病のなりたちと回復の促進1　病理学　医学書院 2)系統看護学講座　専門基礎分野　疾病のなりたちと回復の促進2　病態生理学　医学書院 3)系統看護学講座　専門分野　成人看護学2　呼吸器　医学書院 4)系統看護学講座　専門分野II　成人看護学③　循環器　医学書院
取組	動画や写真などを用いて授業を展開し、理解を深める。
備考	

分野	科目名	単位	時間数	時期	担当講師
専門基礎	病態生理学II (脳神経・神経難病・運動器)	1	30	1年次・第2学期	☑ 兼任教員 ☐ 専任教員
講義目標	脳神経・運動系疾患の病因・病態・症状の特徴と検査・治療について理解し、看護実践における健康・疾病に関する観察力・判断力の根拠とする。				
DPとの関連性	□1. 生活者としての人間を統合された存在として多角的に捉えることができる。 □2. 「人間の生命」、人間としての尊厳及び権利を尊重した判断および行動をすることができる。 □3. 人々の多様な価値観を認識して、専門職業人としての共感的態度および倫理観に基づいた看護を実践することができる。 ■4. 看護の対象となる人々の健康状態を判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 □5. 保健・医療・福祉チームの一員として多職種との連携・協働を図り調整的役割を果たすことができる。 □6. 地域医療への理解を深め、地域の人々の生活を尊重・支援することができる □7. 自己の資質向上のため、看護に対する探求心・向上心をもち、生涯にわたり主体的に学び続けることができる				

回	内容	方略
1～9	I. 脳神経 １. 脳神経系の疾患 1)症状と病態生理 2)診断に用いる検査 3)脳・神経系の疾患と治療 (1)脳・神経の循環障害 (2)脳・神経系の感染症 (3)変性疾患(パーキンソン病・ALS) (4)脱髄疾患(多発性硬化症) (5)脳腫瘍 (6)筋肉系の疾患(進行性筋ジストロフィー・重症筋無力症) (7)末梢神経系の疾患 4)認知症(アルツハイマー病、血管性認知症、レビー小体型認知症) 5)機能性疾患(てんかん)	講義
10～14	II. 運動 １. 運動系の疾患 1)症状と病態生理 2)診断に用いる検査 3)運動系疾患と治療 (1)骨折 (2)骨粗鬆症 (3)骨の腫瘍 (4)腰椎疾患(椎間板ヘルニア・脊柱管狭窄・圧迫骨折) (5)関節リウマチ、変形性関節症 (6)先天性疾患(筋性斜頸・股関節脱臼・内反足) (7)脊髄損傷	
15	評価	筆記試験

評価方法	筆記試験100%
テキスト・参考図書	1)系統看護学講座　専門基礎分野　疾病のなりたちと回復の促進1　病理学　医学書院 2)系統看護学講座　専門基礎分野　疾病のなりたちと回復の促進2　病態生理学　医学書院 3)系統看護学講座　専門分野　成人看護学7　脳・神経　医学書院 4)系統看護学講座　専門分野II　成人看護学10　運動器　医学書院
取組	動画や写真などを用いて授業を展開し、理解を深める。
備考	

分野	科目名	単位	時間数	時期	担当講師
専門基礎	病態生理学III （消化器・腎・泌尿器）	1	30	1年次・第2学期	☑ 兼任教員 ☐ 専任教員

講義目標	消化・腎・泌尿器系疾患の病因・病態・症状の特徴と検査・治療について理解し、看護実践における健康・疾病に関する観察力・判断力の根拠とする。
DPとの関連性	□1. 生活者としての人間を統合された存在として多角的に捉えることができる。 □2. 「人間の生命」、人間としての尊厳及び権利を尊重した判断および行動をすることができる。 □3. 人々の多様な価値観を認識して、専門職業人としての共感的態度および倫理観に基づいた看護を実践することができる。 ■4. 看護の対象となる人々の健康状態を判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 □5. 保健・医療・福祉チームの一員として多職種との連携・協働を図り調整的役割を果たすことができる。 □6. 地域医療への理解を深め、地域の人々の生活を尊重・支援することができる □7. 自己の資質向上のため、看護に対する探求心・向上心をもち、生涯にわたり主体的に学び続けることができる

回	内容	方略
1～9	I. 消化 １. 消化器系の疾患 1)症状と病態生理 2)診断に用いる検査 3)消化器系の疾患と治療 (1)口腔・食道の疾患(食道炎・食道静脈瘤・食道癌) (2)胃の疾患(胃炎・胃・十二指腸潰瘍・胃がん) (3)腸・腹膜の疾患 (クローン病・潰瘍性大腸炎・大腸ポリープ・大腸がん・ヘルニア・イレウス・腹膜炎) (4)肝臓・胆管・胆嚢の疾患 (急性肝炎・劇症肝炎・慢性肝炎・肝硬変・肝がん・ 胆嚢炎・胆石症・胆嚢がん) (5)膵臓の疾患(急性膵炎・慢性膵炎・膵がん) (6)乳腺の疾患(乳がん)	講義
10～14	II. 腎・泌尿 １. 腎・泌尿器系の疾患 1)症状と病態生理 2)診断に用いる検査 3)腎・泌尿器疾患と治療 (1)腎炎・慢性腎臓病 (2)尿路の炎症 (3)腎・尿路の腫瘍 (4)尿路の通過障害 (5)排尿障害 (6)腎不全 (7)前立腺・精巣の疾患	
15	評価	筆記試験

評価方法	筆記試験100%
テキスト・参考図書	1)系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進1 病理学 医学書院 2)系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進2 病態生理学 医学書院 3)系統看護学講座 専門分野 成人看護学5 消化器 医学書院 4)系統看護学講座 専門分野 成人看護学9 女性生殖器 医学書院 5)系統看護学講座 専門分野 成人看護学8 腎・泌尿器 医学書院
取組	動画や写真などを用いて授業を展開し、理解を深める。
備考	

分野	科目名	単位	時間数	時期	担当講師
専門基礎	病態生理学IV (免疫・内分泌・感染・生殖器)	1	30	1年次・第2学期	☑ 兼任教員 ☐ 専任教員
講義目標	免疫・内分泌・代謝・女性生殖器系疾患の病因・病態・症状と検査・治療について理解し、看護実践における健康・疾病に関する観察力・判断力の根拠とする。				
DPとの関連性	□1. 生活者としての人間を統合された存在として多角的に捉えることができる。 □2.「人間の生命」、人間としての尊厳及び権利を尊重した判断および行動をすることができる。 □3. 人々の多様な価値観を認識して、専門職業人としての共感的態度および倫理観に基づいた看護を実践することができる。 ■4. 看護の対象となる人々の健康状態を判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 □5. 保健・医療・福祉チームの一員として多職種との連携・協働を図り調整的役割を果たすことができる。 □6. 地域医療への理解を深め、地域の人々の生活を尊重・支援することができる □7. 自己の資質向上のため、看護に対する探求心・向上心をもち、生涯にわたり主体的に学び続けることができる				

回	内容	方略
1～5	I. 免疫 1. 免疫系の疾患 1)症状と病態生理 2)診断に用いる検査 3)免疫系の疾患と治療 (1)アレルギー疾患 (2)膠原病 (3)感染症	講義
6～10	II. 内分泌・代謝 1. 内分泌系の疾患 1)症状と病態生理 2)診断に用いる検査 3)内分泌系の疾患と治療 (1)下垂体の疾患 (2)甲状腺の疾患 (3)上皮小体(副甲状腺)の疾患 (4)副腎の疾患 (5)多発性内分泌腫瘍 2. 代謝系の疾患 1)症状と病態生理 2)診断に用いる検査 3)代謝系の疾患と治療 (1)糖尿病 (2)脂質異常症(高脂血症) (3)高尿酸血症 (4)肥満病とメタボリックシンドローム	
11～14	III. 生殖 1. 女性生殖器系の疾患 1)症状と病態生理 2)診断に用いる検査 3)女性生殖器系の疾患と治療 (1)性分化疾患 (2)臓器別疾患(外陰、膣、子宮、卵管、卵巣、骨盤内) (3)機能的疾患 (4)性感染症	
15	評価	筆記試験
評価方法	筆記試験100%	
テキスト・参考図書	1)系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進1 病理学 医学書院 2)系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進2 病態生理学 医学書院 3)系統看護学講座 専門分野 成人看護学6 内分泌・代謝 医学書院 4)系統看護学講座 専門分野 成人看護学9 女性生殖器 医学書院 5)系統看護学講座 専門分野 成人看護学11 アレルギー・膠原病・感染症 医学書院	
取組	動画や写真などを用いて授業を展開し、理解を深める。	
備考		

分野	科目名	単位	時間数	時期	担当講師
専門基礎	病態生理学V (血液造血器・感覚器：耳鼻・眼・皮膚・口腔)	1	30	1年次・第2学期	☑ 兼任教員 ☐ 専任教員

講義目標	血液・感覚器系・歯・口腔疾患の病因・病態・症状と検査・治療について理解し、看護実践における健康・疾病に関する観察力・判断力の根拠とする。
DPとの関連性	□1. 生活者としての人間を統合された存在として多角的に捉えることができる。 □2. 「人間の生命」、人間としての尊厳及び権利を尊重した判断および行動をすることができる。 □3. 人々の多様な価値観を認識して、専門職業人としての共感的態度および倫理観に基づいた看護を実践することができる。 ■4. 看護の対象となる人々の健康状態を判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 □5. 保健・医療・福祉チームの一員として多職種との連携・協働を図り調整的役割を果たすことができる。 □6. 地域医療への理解を深め、地域の人々の生活を尊重・支援することができる □7. 自己の資質向上のため、看護に対する探求心・向上心をもち、生涯にわたり主体的に学び続けることができる

回	内容	方略
1～7	I. 血液 １．血液の疾患 1)症状と病態生理 2)診断に用いる検査 3)血液の疾患と治療 (1)貧血 (2)出血傾向と凝固・線溶系の異常 (3)白血球減少症 (4)造血器の腫瘍(白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄炎) (5)ヒト免疫不全ウィルス感染症	講義
8～14	II. 感覚 １．耳鼻の疾患 1)症状と病態生理 2)診断に用いる検査 3)耳鼻咽喉の疾患と治療 ２．眼の疾患 1)症状と病態生理 2)診断に用いる検査 3)眼の疾患と治療 ３．皮膚の疾患 1)症状と病態生理 2)診断に用いる検査 3)皮膚の疾患と治療 ４．歯・口腔疾患	
15	評価	筆記試験

評価方法	筆記試験100%
テキスト・参考図書	1)系統看護学講座　専門基礎分野　疾病のなりたちと回復の促進1　病理学　医学書院 2)系統看護学講座　専門基礎分野　疾病のなりたちと回復の促進2　病態生理学　医学書院 3)系統看護学講座　専門分野　成人看護学4　血液・造血器　医学書院 4)系統看護学講座　専門分野　成人看護学11　アレルギー・膠原病・感染症　医学書院 5)系統看護学講座　専門分野　成人看護学12　皮膚、医学書院 6)系統看護学講座　専門分野　成人看護学13　眼　医学書院 7)系統看護学講座　専門分野　成人看護学14　耳鼻咽喉　医学書院 8)系統看護学講座　専門分野　成人看護学15　歯・口腔　医学書院
取組	動画や写真などを用いて授業を展開し、理解を深める。
備考	

分野	科目名	単位	時間数	時期	担当講師
専門基礎	微生物学（総論・各論）	1	30	1年次・第1学期	☑ 兼任教員 ☐ 専任教員
講義目標	病原微生物分類、特徴、生体に及ぼす影響、消毒法や検査方法について理解し、正しい感染予防の方法を学ぶ。				
DPとの関連性	□1. 生活者としての人間を統合された存在として多角的に捉えることができる。 □2. 「人間の生命」、人間としての尊厳及び権利を尊重した判断および行動をすることができる。 □3. 人々の多様な価値観を認識して、専門職業人としての共感的態度および倫理観に基づいた看護を実践することができる。 ■4. 看護の対象となる人々の健康状態を判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 □5. 保健・医療・福祉チームの一員として多職種との連携・協働を図り調整的役割を果たすことができる。 □6. 地域医療への理解を深め、地域の人々の生活を尊重・支援することができる □7. 自己の資質向上のため、看護に対する探求心・向上心をもち、生涯にわたり主体的に学び続けることができる				

回	内容	方略
1～7	1．総論 1)人と微生物のかかわり 2)微生物の種類と特徴 3)微生物の感染経路と潜伏期間 4)感染症 5)薬剤耐性菌	講義
8～14	2．各論 1)グラム陰性菌・陽性菌 2)グラム陰性通性嫌気性杆菌 3)グラム陰性好気性杆菌 4)グラム陽性杆菌 5)ウィルスについて 6)新感染症法の概説	
15	評価	筆記試験

評価方法	筆記試験100%
テキスト・参考図書	1)系統看護学講座　専門基礎分野　疾病のなりたちと回復の促進4　微生物学　医学書院
取組	動画や写真などを用いて授業を展開し、理解を深める。
備考	

分野	科目名	単位	時間数	時期	担当講師
専門基礎	薬理学	1	15	1年次・第2学期	☑ 兼任教員 ☐ 専任教員
講義目標	薬物の作用や投与経路、人体への影響および薬物の取り扱い、管理について学ぶ。				
DPとの関連性	□1. 生活者としての人間を統合された存在として多角的に捉えることができる。 □2. 「人間の生命」、人間としての尊厳及び権利を尊重した判断および行動をすることができる。 □3. 人々の多様な価値観を認識して、専門職業人としての共感的態度および倫理観に基づいた看護を実践することができる。 ■4. 看護の対象となる人々の健康状態を判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 □5. 保健・医療・福祉チームの一員として多職種との連携・協働を図り調整的役割を果たすことができる。 □6. 地域医療への理解を深め、地域の人々の生活を尊重・支援することができる □7. 自己の資質向上のため、看護に対する探求心・向上心をもち、生涯にわたり主体的に学び続けることができる				

回	内容	方略
1.2	1．薬物治療の目指すもの 1)薬とは 2)薬による病気の治療	講義
3	2．薬はどのように作用するのか	
4	3．薬はどのように体内をめぐっていくのか	
5	4．薬効に影響する因子	
6	5．薬物の有害作用はなぜおこるのか	
7	6．薬の管理と新薬の誕生	
8	評価	筆記試験

評価方法	筆記試験100%
テキスト・参考図書	1）系統看護学講座　専門基礎分野　疾病のなりたちと回復の促進2　薬理学　医学書院
取組	動画や写真などを用いて授業を展開し、理解を深める。
備考	

分野	科目名	単位	時間数	時期	担当講師
専門基礎	臨床薬理学	1	30	2年次・第1学期	☑ 兼任教員 ☐ 専任教員

講義目標	各薬物の特徴、作用機序、取り扱いについて学ぶ。また臨床で行われる服薬指導の実際を学ぶ。
DPとの関連性	□1. 生活者としての人間を統合された存在として多角的に捉えることができる。 □2. 「人間の生命」、人間としての尊厳及び権利を尊重した判断および行動をすることができる。 □3. 人々の多様な価値観を認識して、専門職業人としての共感的態度および倫理観に基づいた看護を実践することができる。 ■4. 看護の対象となる人々の健康状態を判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 □5. 保健・医療・福祉チームの一員として多職種との連携・協働を図り調整的役割を果たすことができる。 □6. 地域医療への理解を深め、地域の人々の生活を尊重・支援することができる □7. 自己の資質向上のため、看護に対する探求心・向上心をもち、生涯にわたり主体的に学び続けることができる

回	内容	方略
1～7回	1．各薬物の特徴と作用機序 1)抗感染症薬 2)抗がん剤 3)免疫治療薬 4)抗アレルギー薬・抗炎症薬 5)末梢での神経活動に作用する薬物 6)中枢神経系に作用する薬物 7)心臓・血管系に作用する薬物 8)呼吸器・消化器・生殖器に作用する薬物 9)物質代謝に作用する薬物	講義
8～14	2．輸液剤について 1)目的・種類 2)適正に使用するために必要な知識 3．消毒薬について 1)目的・種類 2)適正に使用するために必要な知識 4．服薬指導の実際	
15	評価	筆記試験

評価方法	筆記試験100%
テキスト・参考図書	1)系統看護学講座　専門基礎分野　疾病のなりたちと回復の促進3　薬理学　医学書院 2)系統看護学講座　別巻　臨床薬理学　医学書院
取組	動画や写真などを用いて授業を展開し、理解を深める。
備考	

分野	科目名	単位	時間数	時期	担当講師
専門基礎	リハビリテーション論	1	30	2年次・第1学期	☑ 兼任教員 ☐ 専任教員
講義目標	リハビリテーションの理念・定義、リハビリテーションに携わる様々な職種の役割を理解する。				
DPとの関連性	□1. 生活者としての人間を統合された存在として多角的に捉えることができる。 □2. 「人間の生命」、人間としての尊厳及び権利を尊重した判断および行動をすることができる。 □3. 人々の多様な価値観を認識して、専門職業人としての共感的態度および倫理観に基づいた看護を実践することができる。 ■4. 看護の対象となる人々の健康状態を判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 □5. 保健・医療・福祉チームの一員として多職種との連携・協働を図り調整的役割を果たすことができる。 □6. 地域医療への理解を深め、地域の人々の生活を尊重・支援することができる □7. 自己の資質向上のため、看護に対する探求心・向上心をもち、生涯にわたり主体的に学び続けることができる				

回	内容	方略
1～4	Ⅰ. リハビリテーション総論 1. リハビリテーションという言葉の由来 2. リハビリテーションの歴史 3. リハビリテーションの定義・目標 1）全米リハビリテーション協議会による定義 2）世界保健機関（WHO）による定義 3）障害者インターナショナルの声明による定義 4）国連の障害者に関する世界行動計画による定義	講義
5～9	Ⅱ. リハビリテーションの対象と制度 1. 障害者の定義 1）障害者の権利に関する宣言 2）障害者基本法 3）身体障碍者福祉法 4）精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 5）発達障害者支援法 6）障害者の日常生活および社会生活を総合的に支援するための法律 2. 障害者を支える主な制度 1）障害者総合支援法による支援制度 2）障害者の権利に関する条約 3）経済生活を支えるおもな制度 4）障害者手帳と福祉サービス 5）身体障害者の状況	
10～14	3. 疾病・障害・生活機能の分類 ①国際疾病分類（ICD） ②国際障害者分類（ICIDH） ③国際生活機能分類（ICF） ④客観的障害と主観的障害 4. リハビリテーションの分類 ①医学的リハビリテーション ②教育的リハビリテーション ③職業的リハビリテーション ④社会的リハビリテーション 5. リハビリテーション医療の提供 ①経過別にみるリハビリテーション（急性期・回復期・維持期・終末期） ②連携職種 （医師・看護師・理学療法士・言語聴覚士・義歯装具士・視能訓練士・臨床心理士・介護福祉士 医療ソーシャルワーカー） ③多職種連携のあり方	
15	評価	筆記試験

評価方法	筆記試験100%
テキスト・参考図書	1）系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護、医学書院
取組	動画や写真などを用いて授業を展開し、理解を深める。
備考	

分野	科目名	単位	時間数	時期	担当講師
専門基礎	社会福祉I	1	15	2年次・第1学期	☑ 兼任教員 ☐ 専任教員

講義目標	社会福祉の制度と政策を理解し、国民の福祉ニーズと対応方法として社会資源の活用を学ぶ。
DPとの関連性	■1. 生活者としての人間を統合された存在として多角的に捉えることができる。 □2. 「人間の生命」、人間としての尊厳及び権利を尊重した判断および行動をすることができる。 □3. 人々の多様な価値観を認識して、専門職業人としての共感的態度および倫理観に基づいた看護を実践することができる。 □4. 看護の対象となる人々の健康状態を判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 ■5. 保健・医療・福祉チームの一員として多職種との連携・協働を図り調整的役割を果たすことができる。 □6. 地域医療への理解を深め、地域の人々の生活を尊重・支援することができる □7. 自己の資質向上のため、看護に対する探求心・向上心をもち、生涯にわたり主体的に学び続けることができる

回	内容	方略
1.2	1．社会福祉制度と社会福祉 1)社会福祉制度 2)社会福祉の法制度	講義
3.4	2．現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向 1)現代社会の変化 2)社会保障・社会福祉の動向	
5	3．医療保険 1)医療保障制度の沿革 2)医療保障制度の構造と体系 3)健康保険と国民健康保険 4)高齢者医療制度 5)保険診療のしくみ 6)公費負担医療 7)国民医療費	
6	4．介護保険 1)介護保険制度創設の背景と介護保障の歴史 2)介護保険制度の概要 3)介護保険制度の概要課題と展望	
7	5．所得保障 1)所得保障制度のしくみ 2)年金保険制度 3)社会手当 4)労働保険制度	
8	評価	筆記試験

評価方法	筆記試験100%
テキスト・参考図書	1)系統看護学講座　専門基礎分野　健康支援と社会保障制度3　社会保障・社会福祉　医学書院 2)国民衛生の動向　厚生労働統計協会
取組	動画や写真などを用いて授業を展開し、理解を深める。
備考	

分野	科目名	単位	時間数	時期	担当講師
専門基礎	社会福祉II	1	30	2年次・第2学期	☑ 兼任教員 ☐ 専任教員
講義目標	社会福祉活動の実践を事例を通して学ぶ。併せて、社会福祉活動と社会環境の変化との関連を学ぶ。				
DPとの関連性	■1. 生活者としての人間を統合された存在として多角的に捉えることができる。 ■2. 「人間の生命」、人間としての尊厳及び権利を尊重した判断および行動をすることができる。 □3. 人々の多様な価値観を認識して、専門職業人としての共感的態度および倫理観に基づいた看護を実践することができる。 □4. 看護の対象となる人々の健康状態を判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 ■5. 保健・医療・福祉チームの一員として多職種との連携・協働を図り調整的役割を果たすことができる。 □6. 地域医療への理解を深め、地域の人々の生活を尊重・支援することができる □7. 自己の資質向上のため、看護に対する探求心・向上心をもち、生涯にわたり主体的に学び続けることができる				

回	内容	方略
1～3	1．公的扶助 1)貧困・低所得問題と公的扶助制度 2)社会保護制度のしくみ 3)低所得対策 4)生活扶助の動向	講義
4～7	2．社会福祉の歴史 1)福祉史の枠組み 2)福祉史の3段階 3)前近代の救済の諸相 4)近代の救済の諸相 5)現代社会への構造変化と生活支援 6)戦後の社会福祉の再生	
8～10	3．社会福祉の分野とサービス 1)高齢者福祉 2)障害者福祉 3)児童家庭福祉	
11～14	4．社会福祉実践と医療・看護 1)社会福祉援助とは 2)個別援助技術 3)集団援助技術 4)間接援助技術の関連援助技術 5)社会福祉援助の検討課題 6)連携の重要性 7)社会福祉実践と医療・看護の連携 8)連携の場面とその方法	
15	評価	筆記試験

評価方法	筆記試験100%
テキスト・参考図書	1)系統看護学講座　専門基礎分野　健康支援と社会保障制度3　社会保障・社会福祉　医学書院 2)国民衛生の動向　厚生労働統計協会
取組	動画や写真などを用いて授業を展開し、理解を深める。
備考	

分野	科目名	単位	時間数	時期	担当講師
専門基礎	関係法規	1	30	2年次・第1学期	☑ 兼任教員 ☐ 専任教員
講義目標	保健医療福祉に関する法律について理解し、看護上の法的責任を学ぶ。さらに健康な生活を維持するための対象の権利に対する理解を深める。				
DPとの関連性	□1. 生活者としての人間を統合された存在として多角的に捉えることができる。 ■2. 「人間の生命」、人間としての尊厳及び権利を尊重した判断および行動をすることができる。 ■3. 人々の多様な価値観を認識して、専門職業人としての共感的態度および倫理観に基づいた看護を実践することができる。 □4. 看護の対象となる人々の健康状態を判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 □5. 保健・医療・福祉チームの一員として多職種との連携・協働を図り調整的役割を果たすことができる。 □6. 地域医療への理解を深め、地域の人々の生活を尊重・支援することができる □7. 自己の資質向上のため、看護に対する探求心・向上心をもち、生涯にわたり主体的に学び続けることができる				

回	内容	方略
1～10	1．法律の基礎知識 1)法の諸要素 2)法の理念(条理) 3)実定法と自然法 4)法の体系 5)法の存在形式(法源) 6)法律の効力の優劣	講義
	2．生活者の健康と法律 1)生活者の健康に関する法規 2)生活者の健康に関する法規の分類 3)生活者の健康に関する法規の目的・内容の現実に取り組む機関・組織	
11～14	3．看護活動に直接・間接に関与する法とその理解 1)医事法規 (1)保健師助産師看護師法 (2)看護師等の人材確保の促進に関する法律 (3)医療法 (4)医師法 (5)歯科医師法 2)保健衛生法規 3)薬事法規 4)生活衛生法 5)社会福祉関連法規 6)労働関連法規	
15	評価	筆記試験

評価方法	筆記試験100%
テキスト・参考図書	1)系統看護学講座　専門基礎分野　健康支援と社会保障制度4　看護関係法令　医学書院 2)看護行政研究会編:看護六法　新年度版　新日本法規
取組	実例なども交え授業を展開し、理解を深める。
備考	

分野	科目名	単位	時間数	時期	担当講師
専門基礎	公衆衛生学I（総論）	1	30	2年次・第1学期	☑ 兼任教員 ☐ 専任教員
講義目標	健康増進、疾病の予防と共に公衆衛生に関連した統計情報を生かし、疾病の構造の変化や高齢の在宅療養者の問題などの公衆衛生活動を学ぶ。				
DPとの関連性	□1. 生活者としての人間を統合された存在として多角的に捉えることができる。 □2. 「人間の生命」、人間としての尊厳及び権利を尊重した判断および行動をすることができる。 □3. 人々の多様な価値観を認識して、専門職業人としての共感的態度および倫理観に基づいた看護を実践することができる。 □4. 看護の対象となる人々の健康状態を判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 □5. 保健・医療・福祉チームの一員として多職種との連携・協働を図り調整的役割を果たすことができる。 ■6. 地域医療への理解を深め、地域の人々の生活を尊重・支援することができる □7. 自己の資質向上のため、看護に対する探求心・向上心をもち、生涯にわたり主体的に学び続けることができる				

回	内容	方略
1.2	1．公衆衛生とは 1)公衆衛生の概念 2)公衆衛生の歴史	講義
3～5	2．健康と環境、疫学的方法 1)健康の多要因 2)集団検診 3)疫学的因果関係 4)臨床疫学とエビデンス	
6～8	3．感染症とその予防 1)感染症とは 2)感染症の成立要因 3)感染症の流行 4)感染症の種類 5)感染症の動向と感染症法の制度 6)感染症予防の基本 7)感染症予防対策 8)主な感染症	
8～14	4.食品保健と栄養 1)食品の安全 2)食品衛生管理 3)国民の栄養 5.生活環境の保全 1)わが国の健康保全対策 2)地球環境汚染 3)感覚公害 6.医療制度 1)医療保障 2)医療保険 3)高齢者医療制度 4)公費負担医療 5)介護保険 6)国民医療費	
15	評価	筆記試験

評価方法	筆記試験100%
テキスト・参考図書	1)わかりやすい公衆衛生学　ヌーヴェル・ヒロカワ 2)国民衛生の動向　厚生労働統計協会
取組	実例なども交え授業を展開し、理解を深める。
備考	

分野	科目名	単位	時間数	時期	担当講師
専門基礎	公衆衛生学II（各論）	1	15	2年次・第1学期	☑ 兼任教員 ☐ 専任教員
講義目標	環境問題等から公衆衛生活動の実際を学ぶ。				
DPとの関連性	□1. 生活者としての人間を統合された存在として多角的に捉えることができる。 □2. 「人間の生命」、人間としての尊厳及び権利を尊重した判断および行動をすることができる。 □3. 人々の多様な価値観を認識して、専門職業人としての共感的態度および倫理観に基づいた看護を実践することができる。 □4. 看護の対象となる人々の健康状態を判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 □5. 保健・医療・福祉チームの一員として多職種との連携・協働を図り調整的役割を果たすことができる。 ■6. 地域医療への理解を深め、地域の人々の生活を尊重・支援することができる □7. 自己の資質向上のため、看護に対する探求心・向上心をもち、生涯にわたり主体的に学び続けることができる				

回	内容	方略
1.2	1．母子保健 1)母子保健法の歴史的経過 2)母子保健の現状	講義
3.4	2．生活習慣病 1)生活習慣病対策 2)難病対策	
5	3．産業保健 1)労働衛生管理のしくみ 2)職業病	
6.7	4．地域保健活動 1)地域保健法の理念と指針 2)医療サービスの供給体制 3)保健・医療従事者 4)救急医療・災害医療 5)ヘルスサービスの方向	
8	評価	筆記試験

評価方法	筆記試験100%
テキスト・参考図書	1)わかりやすい公衆衛生学　ヌーヴェル・ヒロカワ 2)国民衛生の動向　厚生労働統計協会 3)系統看護学講座　別巻　精神保健福祉　医学書院
取組	実例なども交え授業を展開し、理解を深める。
備考	

分野	科目名	単位	時間数	時期	担当講師
専門基礎	健康支援論	1	15	2年次・第1学期	☑ 兼任教員 ☐ 専任教員
講義目標	現代の保健・医療・福祉のかかえている問題点とその問題発生の背景を知ることにより専門職として社会に貢献する方向性・視点について学ぶ。				
DPとの関連性	□1. 生活者としての人間を統合された存在として多角的に捉えることができる。 □2. 「人間の生命」、人間としての尊厳及び権利を尊重した判断および行動をすることができる。 □3. 人々の多様な価値観を認識して、専門職業人としての共感的態度および倫理観に基づいた看護を実践することができる。 □4. 看護の対象となる人々の健康状態を判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 □5. 保健・医療・福祉チームの一員として多職種との連携・協働を図り調整的役割を果たすことができる。 ■6. 地域医療への理解を深め、地域の人々の生活を尊重・支援することができる □7. 自己の資質向上のため、看護に対する探求心・向上心をもち、生涯にわたり主体的に学び続けることができる				

回	内容	方略
1	1．健康な生活と保健・医療・福祉 1)健康とは　歴史からみる 2)健康ニーズの対応と諸制度	講義
2	2．医療の動向 1)保健医療制度の変遷 2)保健医療制度の現状 (1)入院期間の短縮化と在宅医療の重視 (2)保健・医療・福祉の連携、チーム医療	
3.4	3．高度先端医療の導入と医の倫理 1)生命維持装置と延命治療 移植医療、人工臓器の開発 2)体外受精と出世前診断 3)遺伝子治療など 4)先端医療技術がもたらす倫理上のジレンマ	
5.6	4．患者中心の医療と患者の権利 1)患者の権利の尊重の背景 2)患者の自己決定権と知る権利 3)インフォームドコンセントと医療情報開示 4)薬害問題 薬害エイズ、血液製剤によるC型肝炎他	
7	5．医療への課題 1)医療専門職にとっての課題 2)行政にとっての課題	
8	評価	筆記試験

評価方法	筆記試験100%
テキスト・参考図書	1)系統看護学講座　別巻　総合医療論　医学書院 2)国民衛生の動向　厚生労働統計
取組	動画や写真を用い、実例などを踏まえて授業を展開し、理解を深める。
備考	